実 施 記 録

機関名　京都府立図書館

企画名	**みんなのがん教室2025 第１回「がんになっても自分らしく生きよう」**		
開催日程	2025 年 10 月 25 日	参加人数	25 名
参加者の声	● 講師ががんを体験して、そこから『がん教育』などを通して立ち直っていかれたこと、自ら支援仲間を作られてきた貴重な経験を話され、『がんはこわい』けど学ぶことも大事だと思った。 ● 皆さまの気遣いが感じられてほんわりとした良い気分になれました。こういった雰囲気で出来るのが、公共図書館での開催の利点の一つだと感じています。		
メディアで取り上げられた件数	0 件	掲載内容（記事・URL）	

- 実施のきっかけ、機関同士が「つながる」きっかけ

  名古屋市立図書館の連続講座「みんなのがん教室」を視察した際、関係者の方々と直接意見交換を行ったことが本企画の端緒となりました。

- 実施にあたり、大変だった（苦労した）点

  名古屋市および塩尻市から専門性の高い講師を多数招聘したことにより、予算の多くを講師謝礼及び交通費へ充当しました。その分、運営コストを抑制するため動画配信（撮影・編集）については当館職員がフリーソフトで実施しました。初の試みであったため、技術習得や編集工程に多大な時間を要しました

- 実施して良かった！と思えた点、今後こんなことがしてみたい！と思う点

  連続講座として実施したことで、参加者が何度も来館してくださるなど、継続的な利用者層の形成につながりました。今後はこのつながりを活かし、さらに多様なニーズに応える企画を展開したいと考えています。

- 実施に向けて機関同士で大事にしてきた点

  単発の講義に終わらせず、双方向のコミュニケーションを重視しました。参加者からの質疑応答や、参加者同士の交流時間を十分に確保できるよう、余裕を持ったタイムスケジュールを作成しました。

- 機関同士での共同企画を行ってみたいと思っている機関へのメッセージ

  「共同企画を行うには、まず近隣や同エリア内で連携しなければならない」と考えがちですが、必ずしもそれだけが正解ではないと感じています。当館の場合、まずは場所を問わず信頼できる団体との連携から一歩を踏み出しました。その結果、企画の実施を通じて少しずつ地元の団体との接点も生まれ、後から地域のつながりができました。

実 施 記 録

機関名　京都府立図書館

企画名	**みんなのがん教室2025 第 2 回「健康に関して信頼できる情報を探そう･見極めよう」**		
開催日程	2025 年 11 月 18 日	参加人数	20 名
参加者の声	● 説明がとても分かりやすかったです。「みきき」と「いなかもち」を忘れないようにしようと思いました。 ● 図書館でこのようなイベントがあることを知らなかったので、来てみてよかったです。 ● 大変わかりやすい講演をありがとうございました。 ● 医中誌 Web の存在を知ることができてよかったです。		
メディアで取り上げられた件数	0 件	掲載内容 （記事･URL）	

- 実施のきっかけ、機関同士が「つながる」きっかけ

  機関ではなく、個人の研究者との連携になります。講師から、研究成果として一般市民向けのヘルスリテラシーに関する教材を作成され、提供に関する問い合わせがあったことがきっかけとなりました。

- 実施にあたり、大変だった（苦労した）点

  「情報の見極め方」については、講師で担当していただきましたが、図書館側では「情報の探し方」について具体的に提示する役割を担いました。一般市民が日常生活で活用できるデータベースやツールを絞り込み、専門性が高く実用性の高い情報として再構成することに苦労しました。

- 実施して良かった！と思えた点、今後こんなことがしてみたい！と思う点

  健康医療情報の見極め方についてお伝えする機会を持つことができた。また、当館で提供しているデータベース「医中誌 Web」についても PR することができました。

- 実施に向けて機関同士で大事にしてきた点

  先方の「研究成果の普及」という目的と、当館の「信頼できる情報の提供」という目的の接点を探り、「利用者にとっての分かりやすさと実践しやすさ」を共通のゴールに据えて対話を重ねました。

- 機関同士での共同企画を行ってみたいと思っている機関へのメッセージ

実 施 記 録

機関名　京都府立図書館

企画名	**みんなのがん教室2025 第 3 回「からだ・こころ・くらしの整え方 ～看護師・臨床心理士・社会福祉士と話してみませんか？ ～」**		
開催日程	2025 年 12 月 21 日	参加人数	20 名
参加者の声	• がん相談支援センターの 3 名の先生からそれぞれ具体的にすぐ私たちでもできることのヒントをお話しいただき、安心が増えました。 • がんとのかかわり方の切り口について、医学以外の視点、福祉、心理面があってよかった。 • がんに関するブックリストのチラシをいただけて、とてもうれしく思います。非常に参考になります。		
メディアで取り上げられた件数	0 件	掲載内容（記事・URL）	

- 実施のきっかけ、機関同士が「つながる」きっかけ

  同じ京都府内の機関である京都府立医科大学附属病院がん相談支援センターとの連携を構想し、当方から訪問・協議を行ったことが始まりです。

- 実施にあたり、大変だった（苦労した）点

  先方の規定に基づく膨大な提出書類の準備、およびその調整に時間を要しました。

- 実施して良かった！と思えた点、今後こんなことがしてみたい！と思う点

  がん相談支援センターの認知度向上に寄与できた点です。参加者からも「初めて存在を知った」という声が多く、微力ながら橋渡しとしての役割を果たせたと実感しています。

- 実施に向けて機関同士で大事にしてきた点

  事務手続きの停滞を防ぐため、必要書類の迅速な提示を徹底しました。また、共催のメリットを最大化すべく、広報活動に注力しました。

- 機関同士での共同企画を行ってみたいと思っている機関へのメッセージ

  未知の機関へのアプローチには勇気を要しますが、互いのニーズが合致した際の相乗効果は大きいと感じました。

実 施 記 録

機関名　京都府立図書館

企画名	**みんなのがん教室2025 第４回「納得して治療や旅立ちを決める ～生きる基軸を立てようじゃありませんか～」**		
開催日程	2026 年 2 月 28 日（土）	参加人数	24 名
参加者の声	● インフォームド・コンセントの必要性について、理解を深めることができた。 ● マンダラチャートを用いたワークにより、漠然としていた「生きる基軸」が言語化され、家族と対話する足掛かりが得られた。 ● 治療する身になったとき、専門家の説明に同意するだけでなく拒否するという選択も時には重要だということが印象に残っています。 ● 20 代という若年層の参加者にとっても、死生観や治療方針を考える貴重な機会となった。		
メディアで取り上げられた件数	0 件	掲載内容 （記事・URL）	

- 実施のきっかけ、機関同士が「つながる」きっかけ

  京都府内のがん患者・家族会へ参加した際、登壇者と接点を持ったことが契機です。本イベントの趣旨に賛同いただき、講演の依頼に至りました。

- 実施にあたり、大変だった（苦労した）点

  講師が一般市民向けの講演は初めてとのことで、一方的に講義をするよりも、対話を聴いてもらう形の方がよいだろうということで、丁寧なシナリオを準備して寸劇を演じてくださいました。

- 実施して良かった！と思えた点、今後こんなことがしてみたい！と思う点

  講師による寸劇の後、ワークとディスカッションの時間を設けたことで、参加者の満足度が非常に高い結果となりました。専門家による講義だけでなく、マンダラチャートのような「ワーク」を組み合わせてディスカッションにつなげる方法は盛り上がりましたので、今後も取り入れたいと考え

【事務局記載】　年　月　日受取

ています。

- 実施に向けて機関同士で大事にしてきた点

  ディスカッションしやすいように、参加者には最初からグループごとに島を作って着席してもらうなど工夫した。

- 機関同士での共同企画を行ってみたいと思っている機関へのメッセージ

  地域の患者会に足を運んだことで、熱意ある新たな連携してくださる方と出会うことができました。

【事務局記載】　　年　　月　　日受取